



聖母の被昇天 (ルカ 1:39-56)

あなたは最初に何を声高らかに叫ぶ

2020年の聖母被昇天の祭日を迎えました。今年、県外から里帰りしている方とその家族、県外にお出かけになった方とその家族には、8月15日16日のミサ参加を控えてもらいたいと依頼しています。申し訳ない気持ちでいっぱいの中、ミサを続けております。

今年の聖母被昇天で、私は次の箇所を取り上げたいと思います。「エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。『あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。』」(1・41-42) エリサベトは、マリアに与えられた栄誉を、声高らかに言うのです。

私たちは今年、新型コロナウイルスの影響でさまざまな制約を強いられています。その一つは、「大声を出さない」ということで、教会では聖歌をできるだけ控え、歌う時も大きな声で歌わないように気を付けています。これはもちろん、本来の姿から遠く離れています。

安倍晋三首相は8月9日、長崎市内で開いた記者会見で、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大に関し、緊急事態宣言の再発令に慎重な考えを示しました。その一方で、「この半年で得られた知見をフル活用し、感染予防や重症化予防に万全を期す」と語ったうえで「社会経済活動との両立を図る方針に変わりはない」と強調しました。

ただ、両立と言えるのか、疑問もあります。お盆期間の帰省について、帰省の際は「3密」の回避や大声で話さないなど「基本的な感染防止策を徹底するようお願いする」と呼びかけています。無理を承知で、両立の旗を振っていないのでしょうか？

こうした中で、エリサベトの態度は、私たちにとって希望を持たせるのです。「エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。」声を大にして、喜びいっぱいの気持ちで、マリアを讃えたのです。マリアを通して、自らに働かれた神のあわれみといつくしみをも讃えたのです。

これが、本来あるべき姿でしょう。そして、この姿に、私たちが声高らかに言う「順位」についても教えが込められています。私たちは、いつか大声を出してよいその時が来たら、まず声高らかに叫ぶのは、神への感謝、神の計画を讃えることなのです。

政府は、大声を出していいですよとなった時、最初に何を考えているのでしょうか。私たちは知っています。この辛い時期を乗り越えて大声を出せるようになった時、神様を賛美するのです。神への賛美を最初に大声で唱える人が、天に上げられたマリアに倣う人なのです。

聖母被昇天の今日、心ならずもミサ参加を見合わせてくださいとお願いした方々もおられます。ぜひミサの説教を持ち帰って、私たちカトリック教会の新型コロナウイルスの後に大声で言い表す物は何かを届けてください。エリサベトを訪ねたマリアに、私たちも見倣いしましょう。